

# 高山右近 信仰と美の生涯

## 没後400年、来年金沢で企画展

安土桃山時代のキリシタン大名高山右近（一五五一～一六一五年）のゆかりの美術品や書状を集めた企画展が来年二月三日の没後四百年に合わせて金沢市の石川県立美術館で催される。カトリック関係者が右近を、日本に初めてキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルらと同じ「聖人」の位とするようにローマ法王庁に運動する中、関心を集めてきた。（沢井秀和）

加賀・前田家に二十六年預けられ、後年は加賀藩の重臣として活躍した右近の生きざまに触れてもらおうと美術館が企画。茶道具、南蛮美術など百点余りを展示する。全国でも例がない総合展になるという。

七つの星でかたどられた高山家の家紋が正面に施された南蛮かぶと（南蛮文化館蔵）、金の糸で織られ、右近が所有し、儀式に着たとみられるチョッキ（カトリック大阪司教区蔵）な

どが展覧される。一六四六年にローマで刊行され、最も古い右近画像（京都外国語大蔵）も展示される。「御坊へ」の銘があり、右近が作ったとされる茶杓（滴翠美術館蔵）、金沢の茶人に羽ばつきを結ったのでみてほしいと伝える右近の書状（石川県立美術館蔵）も紹介。利休の高弟だった右近の姿、キリスト教と茶の湯の関係も浮き彫りにする。

北陸関係では、石川県七

## 期待にも認定 聖人 武具や茶道具

尾市の本行寺に伝わる聖母像、右近が所有したとされる脇差し、右近が設計したという高岡城（富山県高岡市）の図（金沢市立玉川図書館蔵）も並ぶ。

企画展「右近とその時代」は一月四日～二月八日に開催。担当課長の村瀬博春さんは「右近は武将としてではなく、命を大切にする生き方を選んだ。物質的

な繁栄に目が奪われがちな私たちに示唆を与えてくれる。さまざまな角度から右近を捉え直す機会としてもらえれば」と話している。



①七つの星でかたどられた高山家の家紋が正面に施された南蛮かぶと（南蛮文化館蔵）  
②右近が着用したと伝わる、金の糸で織られたチョッキ（カトリック大阪司教区蔵）

**高山右近** 現在の大阪府豊能町高山に生まれ、12歳ごろ洗礼を受けた。洗礼名はユスト（義の人）。高槻城（大阪府）や明石城（兵庫県）の城主も務め、NHK大河ドラマの主人公黒田官兵衛にも洗礼を勧めた。1614年のキリシタン国外追放令で金沢を追われ、翌年2月にマニラで病死した。日本カトリック司教協議会が、崇敬対象の最高位である「聖人」となるように働き掛けている。ローマ法王が来年フィリピンを訪れた折に、その前提の位とされる「福者（ふくしゃ）」に認定されるとの期待が広がっている。